考古学地理情報分析計画シート（20250623第1版）

タイトル　南関東における旧石器時代の遺跡立地

対象地域・範囲　埼玉県、千葉県、東京都

時代・時期　後期旧石器時代

研究上の問い

ある時期までの遺跡は山間の丘陵部や高位の河岸段丘上に単独で存在する傾向があるのに対して、それ以降の遺跡では武蔵台遺跡のように開けた台地の重層遺跡が多いという指摘がある

データセット

・主な分析対象　遺跡地図・台帳データ

・データソース　データベース『日本列島の旧石器時代遺跡』

・データ整形　旧石器DBの緯度経度を世界測地系10進法標記に変更

　　　不要情報（読み方・文献情報など）の削除

地理情報解析対象

・ラスタデータ　地理院10mDEM：標高データ取得のため

・ベクタデータ　国土数値情報土地分類：立地（地形分類）データ取得のため

解析手法

・地理空間情報の取得：地形分類のベクタデータを使用

　・ラスタ

　・ベクタ＞属性の結合→ポリゴン（地形分類）にポイントデータ（遺跡）を追加

・集計：ベクタ＞解析ツール＞ポリゴン内の点の数をカウント

図化

・背景地図　地理院地図淡色地図

・重ね合わせ地理情報　土地分類、河川

・図化

　・分布図　入力データのポイント表示、ナイフ形石器出土遺跡の抽出

　・その他の解析図　ヒートマップ